

---

 記 事
 

---

## 例会記録

日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会・  
日本歯科医史学会・日本看護歴史学会・洋学史学  
会 合同12月例会

令和元年12月21日(土)

順天堂大学 御茶ノ水センタービル6階601教室

1. 日本における牛白血病の発生と拡散の歴史  
日本獣医史学会：小林朋子
2. なぜ戦後，医学部と歯学部のみが6年制大学  
となれたか 日本歯科医史学会：佐久間泰司
3. ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点と  
した看護教育の歴史  
日本看護歴史学会：佐々木秀美
4. 野中家蔵書中の浅田宗伯自筆書籍について  
洋学史学会：青木歳幸

5. ヴィクトリア時代イギリスにおける医師資格  
——高木兼寛の場合

日本医史学会：永島 剛

6. 医家と神仙家と生薬の基源

日本薬史学会：御影雅幸

## 日本医史学会1月例会

令和2年1月25日(土)

順天堂大学10号館105

1. 江戸時代の医療とジェンダー  
～「女医師」たちの活動から 鈴木則子
2. 在ドイツ森林太郎あて書簡にみる帝国大学  
医科大学事情(その2) 岡田靖雄

## 例会抄録

## 1889～2014年のインフルエンザ超過死亡と公衆衛生

——ウイルス循環，経済水準，予防接種の役割——

## 逢見 憲一

本報告では，“スペインかぜ”を含む19世紀後半から現代に至るインフルエンザ流行の歴史を追いつ、その健康被害について可能な限り定量的に把握したうえで、公衆衛生の観点からみたインフルエンザ対策について検討した。

富士川游によると、わが国において「源氏物語」や「増鏡」に「シハブキヤミ」の記述があり、当時の医書「医心方」にも「咳嗽」の病名が挙げられていた。その中にはインフルエンザが含まれていたと考えられる。また富士川とHirshの記述をもとに比較すると、1832(天保3)年(“琉球風”)1850(嘉永3)年の流行(“アメリカ風”)以降の

西洋諸国のインフルエンザ流行にともなわってわが国でも流行が生じていたと考えられる。

1889(明治23)年にロシアで始まり、わが国にもたらされたインフルエンザ、すなわち、“旧ロシアかぜ”の流行は、“パンデミック(pandemic)”の語が、初めて現代的な意味で、また全世界で用いられた流行であった。そのわが国における猛威は、岡本綺堂の随筆や木版画“はやり風用心”などによっても知ることができる。このパンデミックはその強力な感染力から“お染風”の別名で恐れられた。演者は、府県統計書および「東京府下死亡一週表」等の資料を用いて、このパンデミッ